

# バス運転手

## 1日に密着

6:30

出勤

(1) 出勤したらまず、営業所 1 階に掲示されている出勤表を確認します。事前に出勤表は確認し、出勤時間は頭に入れていますが、急な変更がないかを含めて最終チェックします。



(2) 乗務検査（アルコールチェック）を受けます。東京都交通局では、乗務前日の飲酒は禁じられています。お客様を乗せて走る以上、飲酒運転撲滅の厳しいルールが敷かれているのは当然のこと。もちろん私も前日はお酒を口にしていますが、検知器にストローで息を吹き込み測定します。



(3) 更衣室で制服、制帽を身に着けます。運転手の印象は、そのまま都営バスや東京都交通局への印象にもつながります。鏡でチェックしながら身だしなみをきちんと整えます。



7:00

車両点検



- (1) 料金機用の金庫を営業所内の所定の棚から取り出し、それを持って乗務する車両に向かいます。今はほとんどが IC カードでの支払いとなり、現金の割合は大幅に減りました。金庫を運転席横の運賃箱にセットします。



- (2) 乗務する車両を点検します。整備専門の職員によって車両は万全の状態に保たれていますが、出庫前の日常点検として、エンジンオイルの量やタイヤの状態などをチェックします。結果を車両点検表に記入し、始業点呼の際に提出します。

7:20

始業点呼

- (1) 免許証を提示後、健康状態・車両状態・携行品等を確認・報告。アルコールチェックの結果に問題がないことも確認します。
- (2) 運行管理者からその日の運行指示書（運行ダイヤ）を手渡され、詳細を確認します。



7:30

乗務開始

- (1) いよいよ乗務がスタートです。その日の運行ダイヤによって担当する路線は変わります。長い路線では4往復程度、短い路線では6往復程度乗務します。
- (2) 運転手は、お客様とじかに接するサービス業。朝のラッシュで混み合う時間帯も、お客様にできるだけ気持ち良くご利用いただけるよう、「ご乗車ありがとうございます」と笑顔であいさつすることを意識しています。
- (3) 乗り心地を良くするために、減速や加速は段階的に行います。特に、停止時のブレーキ操作は最も注意を払うところ。衝撃なく停止できるように毎回気を配ります。



11:00

休憩



- (1) 運行ダイヤに応じて、休憩に入る時間も異なりますが、各乗務員は食事、仮眠など思い思いに過ごします。
- (2) 家から弁当を持参することもあります。今日は営業所内の食堂でランチ。食事をしながら同僚と雑談をするのも気分転換になります。

16:00

乗務再開



- (1) 休憩を終え、身だしなみを整えて、再度アルコールチェックを受けます。
- (2) 後半の乗務がスタート。夕方のラッシュ時で道路の交通量も増えていきます。前方だけでなくサイドミラーやバックミラーにも注意深く目を配りながら、安全を第一に運転します。

20:00  
過ぎ

乗務終了

(1) 営業所に戻り、敷地内に設置してあるガソリンスタンドで給油した後、所定の位置に駐車します。



(2) お客様の忘れ物などがいないか車内を点検。座席の下も忘れずチェックします。



(3) 車体の傷や異常の有無などを目視でチェックします。



(4) 料金機から金庫を取り外して営業所に戻り、金庫の中のお金を精算します。

20:30

終業点呼

(1) 3度目となる最後のアルコールチェックを受けます。乗務中にいっさいのアルコール類を口にしてい  
ないか、念には念を入れたチェック体制が敷かれているのです。

(2) 運行管理者に、乗務の終了を報告。次回の勤務を確認して、この日の勤務は完了です。

(3) 更衣室で私服に着替えます。乗務を無事に終えた安心感から同僚との会話も弾み、リラックスできる瞬間です。とはいえ乗務時間以外も、公務員としての自覚は常に必要。家に帰り着くまで気持ちを緩めず、都民の方々に「見られている」という意識を大切にしています。